

超小型 EV に未来はあるか？

～EU では普及、国内でも複数社で開発・販売直前～

－講師－

株式会社 Tech-T 代表取締役

(元トヨタ自動車／Samsung SDI) 博士(工学) 高原 忠良 氏

日 時 2025 年 9 月 3 0 日 (火) 午後 1 時～3 時
受講方法 ライブ配信／アーカイブ配信(2 週間、何度でもご視聴可)

[重点講義内容]

EU では、二人乗りの超小型 EV が年間 1 万台以上販売されています。域内で複数のブランドから発売されており、14 歳ないし 15 歳以上では運転免許無しで運転可能で、新たな移動手段として認知されています。軽量化対応のため車体外板はすべて樹脂製であり、コスト低減狙いで無塗装仕様のみでした。

日本では一人乗り、いわゆる原付四輪車が、乳飲料の宅配や構内車両として多数活用されています。また、二人乗りあるいは四人乗りの超小型 EV がカーシェアとして提供されています。国内では複数の会社で開発が進んでおり発売間近です。当社の現地調査では、中国の地方都市や東南アジアで小型 EV が拡大期にあると推定しています。一方、日本では発売から 3 年足らずで生産停止になる車両もあり課題感も透けて見えます。

気軽で利便性が高い、脱炭素に貢献する、新たな移動手段として期待される一方で、価格対機能や法規対応などの課題もあります。豊富な試乗や実車確認結果も踏まえて、可能性と課題を解説いたします。

1. EU の超小型 EV

- (1) Citroën AMI 試乗動画で紹介、そのほかの類似車両
- (2) 樹脂製の車体を中心に分解・分析調査結果
- (3) EU における規格／カテゴリー

2. 日本の超小型 EV

- (1) すでに発売済み車両紹介
トヨタ車体(アラコ) コムス、その歴史から環境にやさしい新車体まで
トヨタ C+pod／Fomm One 試乗動画で紹介
- (2) 開発中の車両紹介
KG モーターズ mibot／エイム EVM 展示車両を動画で紹介
- (3) 日本における規格／カテゴリー

3. 中国地方都市や東南アジアで普及が進む小型 EV

4. 想定される用途

- (1) 交通弱者の足
- (2) 安価で簡便な新交通手段、島しょ部など
- (3) 気軽な足 家庭で充電、駐車スペースもわずか
- (4) 真のカーボンニュートラル(走りに特化、カーシェア・共用化)

5. 普及の課題と今後の見通し

- (1) 規格と安全・軽量化、申請と認可 (2) 価格 (3) 品質・機能の割り切り
- (4) 軽量化のための樹脂化(車体外板、ガラス)

6. 質疑応答

※最新動向により内容の一部を変更する場合があります。

